

経済産業省 「産学協働インターンシップ等の 連携実態調査」調査結果（中間報告）

平成27年度産業経済研究委託事業（インターンシップ等による産学協働教育のための連携基盤構築に関する調査）

株式会社クオリティ・オブ・ライフ
代表取締役 原正紀

1

経済産業省における キャリア教育のねらい・取り組み

経済産業省資料より

- ① **エンployアビリティの向上**
国内市場の成熟化やグローバル化によって、若手にも質の高い業務への対応が期待されている。職場や地域社会で多様な人々と仕事をするために必要な基礎的な力（＝社会人基礎力）の育成を図る。
- ② **若者と企業のミスマッチ解消**
若者の早期離職率の高止まり、就職における大企業への人気の集中等が課題となる中、各人の資質に応じた適切な職業選択を促す。
- ③ **学習の動機付けによる学力向上**
高学歴が進む一方、新入社員の学力は低下しているとの指摘がある。実際の仕事の基礎となることを実感することで、学習に対する動機付けを行い、学力の向上を目指す。

産業界ニーズに適合した人材育成に向けて各種政策を推進



- 高等教育における『社会人基礎力』育成の浸透
- 産学協働によるキャリア教育の推進
- **インターンシップの普及・促進**

2

インターンシップの量的・質的拡大に向けた経済産業省の取り組み

平成24年度 インターンシップの質的・量的拡大に向けて、産学連携によるインターンシップのあり方を調査・提言するとともに、企業における実践事例を取り上げた活用ガイドを作成

平成25年度 教育的効果の高いインターンシップの普及のあり方についての調査を行うとともに、企業においてインターンシップを実施する際に使用する書式類や、企業と教育機関や地域を繋げるコーディネーターの育成に向けたガイドブックを作成

平成26年度 企業におけるインターンシップの実施状況や課題についての調査を行うとともに、これまでの事業の成果を産業界へ普及させ、インターンシップ推進をより加速させる

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/intern.html>

平成26年度：共育型インターンシップ人が育ち企業が伸びる新たな「場」

平成26年度経済産業省研究委託事業 『共育型インターンシップの普及に関する調査』より

- これまでの調査・研究の成果物の一層の普及を図るとともに、学生の成長だけでなく、企業にとってもメリットのあるインターンシップを「共育型インターンシップ」として打ち出し、企業へ訴求することによって、インターンシップの普及を実現
- 企業におけるインターンシップの実施状況をアンケート調査し、潜在的な課題・ニーズを抽出・分析することで、インターンシップの普及に向けた重点ポイントを定める

本業と人材を共に育てる共育型インターンシップ

本業強化	人材強化
<ul style="list-style-type: none"> ● 第二の創業（新製品開発、海外進出など） ● 既存業務の改革 ● 業務の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 採用（認知度の向上、新卒育成/ノウハウ獲得など） ● 社員への刺激 ● キャリア教育への貢献



共育型インターンシップ普及への提言

情報発信	提言1	提言2
<p>提言1</p> <p>学生と企業人が出会う新たな「場」をつくる「共育型インターンシップ」は企業の本業強化と人材強化に有効だと周知していく。</p>	<p>提言2</p> <p>実践にあたっては経営者が先頭に立ち、場をつくる目的と望む人材像を決め、一歩ずつ取り組む。</p>	
協働の基盤構築	提言3	提言4
<p>提言3</p> <p>共育型インターンシップの実例、そこから得られた勘所、取り組みを支援したコーディネーターといった知的・人的資産を積極活用する。</p>	<p>提言4</p> <p>地域において自治体、大学、経済団体、学生と企業を結びつけるコーディネーターやコーディネート機関が協働する基盤・体制をつくる。</p>	
ビジョン形成	提言5	
<p>提言5</p> <p>地域における人材育成のビジョンを掲げ、企業、大学、自治体がそれぞれの立場を超えて協働する。</p>		

「産学協働インターンシップ等の 連携実態調査」の目的と実施概要

●調査の目的

各地域にて産学官で構成される連携基盤（インターンシップ推進協議会等の連携組織）における実態調査を行い、各地域の連携基盤（連携組織）の活動実績や運用状況等を把握すること

●調査の実施概要

【調査方法】 郵送調査

【調査時期】 平成27年12月10日～平成28年1月12日

【対象】

- 連携組織（産学官が連携して組織される団体）： 44件
- 国内の国公立大学及び私立大学： 772校
- 経済団体（商工会議所や経営者協会等）： 241機関
- 地方自治体（都道府県、政令指定都市、都道府県庁所在都市）： 101件

【回収数】

- 連携組織： 27件 （回収率：61.4%）
- 大学： 507校 （回収率：65.7%）
- 経済団体： 97機関 （回収率：40.2%）
- 地方自治体： 72件 （回収率：71.3%）

5

経済産業省「産学協働インターンシップ等の連携実態調査」調査結果（中間報告）

平成27年度産業経済研究委託事業（インターンシップ等による産学協働教育のための連携基盤構築に関する調査）

連携組織設立と参加状況

6

連携組織の設立時期と参加状況

- 連携組織設立は2010年以前が約6割を占める
- 大学、経済団体、自治体の連携組織の参加率はそれぞれ6割前後となっている

●現在の組織形態になった時期（全体／自由回答を集計）

	1990年以前	1991～2000年	2001～2010年	2011～2015年	不明	無回答
●凡例						
連携組織全体 (n= 27)	11.1%		48.1%			40.7%

●連携組織への参加率（全体／現在の連携組織への参加の有無により集計）

	参加している	参加していない	無回答
●凡例			
大学 (n=507)	63.9%	32.7%	3.4%
経済団体 (n= 97)	52.6%	39.2%	8.2%
自治体 (n= 72)	55.6%	40.3%	4.2%

7

連携組織への参加時期

- 大学、経済団体、自治体ともに「2011～2015年」に参加した割合が最も高い
- 「2010年以前」「2011年以降」に分類すると、大学と経済団体は5年以上参加している割合の方が高い。一方、自治体はここ5年で参加している割合の方が高い

●連携組織への参加時期（現在参加している機関／自由回答を集計）

	1990年以前	1991～2000年	2001～2010年	2011～2015年	不明	無回答
●凡例						
大学 (n=324)	0.9%	15.1%	33.3%	38.3%	0.6%	11.7%
経済団体 (n= 51)	11.8%		33.3%	43.1%		5.9%
自治体 (n= 40)	2.5%	5.0%	25.0%	55.0%		7.5%

↓ 2010年以前と2011年以降に分類すると

	2010年以前	2011年以降	不明	無回答
●凡例				
大学 (n=324)	49.4%	38.3%	0.6%	11.7%
経済団体 (n= 51)	45.1%	43.1%		5.9%
自治体 (n= 40)	32.5%	55.0%		7.5%

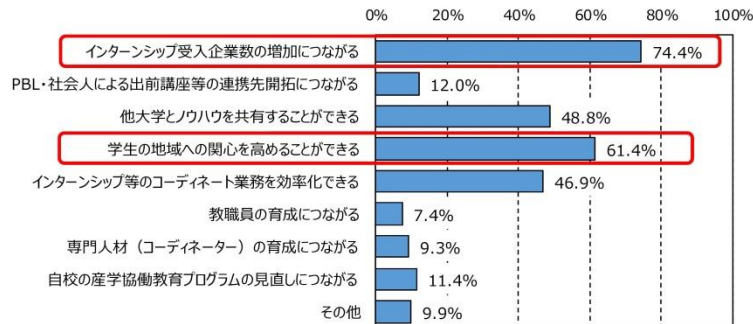
8

連携組織への参加の目的〈大学〉

- 大学の連携機関への参加の目的は「インターンシップ受入企業数の増加につながる」が74.4%と最も高く、大学がインターンシップへの取組を強化する中で、受入企業の開拓への期待が参加のきっかけとなっているとみられる
- 次に、「学生の地域への関心を高めることができる」が61.4%で続き、地域連携組織を通じた学生と地域との接点への期待もみられる

●参加の目的（現在参加している大学／上位3つ）

(n=324)



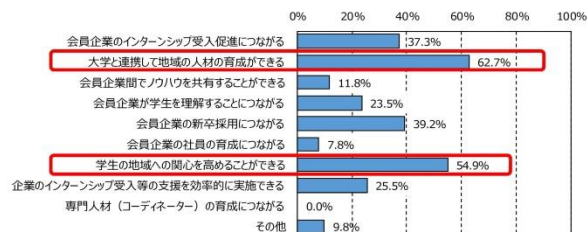
9

連携組織への参加の目的〈経済団体・自治体〉

- 経済団体は「大学と連携して地域の人材の育成ができる」が62.7%と最も高く、「学生の地域への関心を高めることができる」が続く
- 自治体は「学生の地域への定着につながる」が80.0%で最も高く、「産学が連携して地域の人材の育成ができる」が続く
- 経済団体、自治体ともに産学が連携した地域での人材育成を目的としている点が共通している

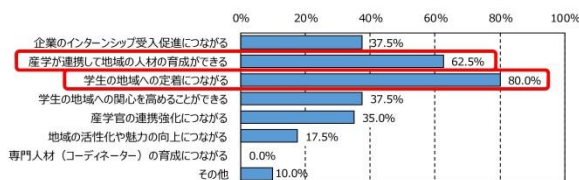
●参加の目的（現在参加している経済団体／上位3つ）

(n=51)



●参加の目的（現在参加している自治体／上位3つ）

(n=40)



- ✓ 『地域』が3機関に共通する連携組織への参加目的となっている
- ✓ 連携組織には、学生の地域理解・定着に繋がる人材育成が求められている

10

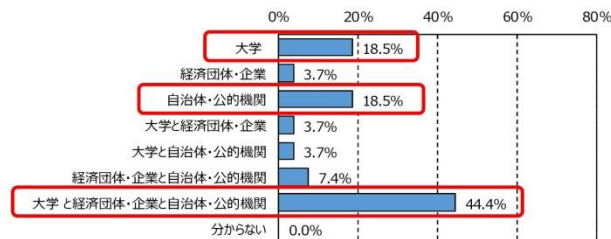
連携組織の体制・運営状況

11

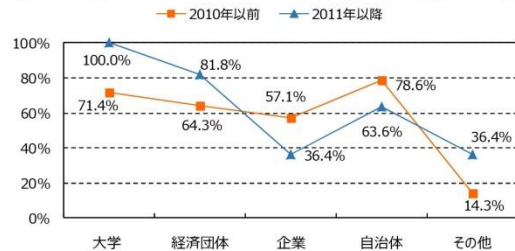
連携組織構築で中心的な機関と構成メンバー

- 連携組織の構築で中心的な役割を果たした機関は「大学・経済団体・自治体」が44.4%と最も多い
- 連携組織の構成メンバーについては、設立時期が2010年以前の連携組織では「企業」「自治体」が参加している場合が多く、2011年以降は「大学」「経済団体」の割合が高い

● 連携組織の構築で中心的な役割を果たした機関（全体／複数回答）（n=27）



● 【設立時期別】構成メンバーに入っている割合（全体（無回答を除く）／複数回答）（n=25）

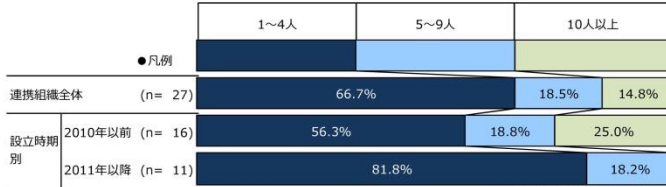


12

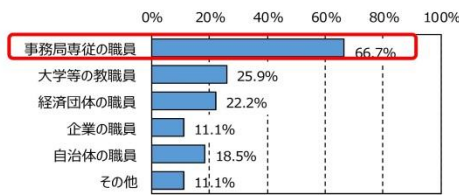
連携組織の事務局の体制

- 連携組織の事務局の人数は「1~4人」が66.7%と最も高い。2010年以前に設立の連携組織は2011年以降と比べ、事務局体制が充実している傾向がみられる
- 事務局専従の職員がいる連携組織は66.7%。設立時期別では、2010年以前に設立の連携組織の約8割が事務局専従の職員がいるが、2011年以降では「大学等の教職員」が連携組織の事務局をしている割合が高い

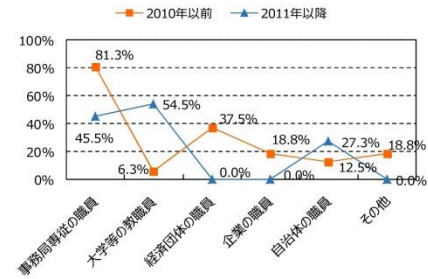
●事務局の人数 (全体/自由回答を集計)



●事務局の内訳 (全体/自由回答を集計) (n=27)



●【設立時期別】事務局の内訳 (全体/自由回答を集計) (n=27)



13

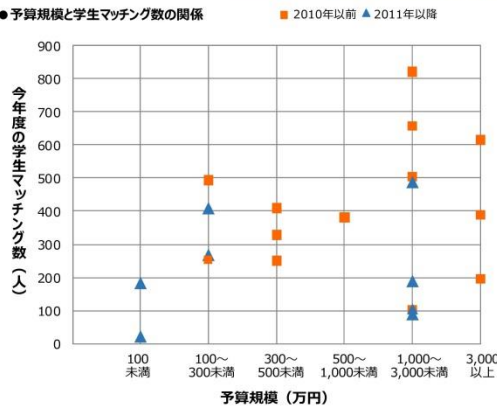
連携組織の運営予算

- 連携組織の運営予算は「1,000万円未満」が5割強、「1,000万円以上」が4割となっている

●年間予算 (全体/単一回答)



●予算規模と学生マッチング数の関係



14

連携組織の運営予算の負担割合

- 連携組織の運営予算に拠出しているのは「自治体」が68.0%と最も高い。次いで、大学等が56.0%となっている
- 2010年以前に設立された連携組織では「自治体」が負担している場合が多く、「企業」の負担もみられる。一方、2011年以降に設立された連携組織では「大学等」「自治体」「その他」が負担している場合が多い

● 連携組織の予算の負担機関（全体／自由回答を集計）

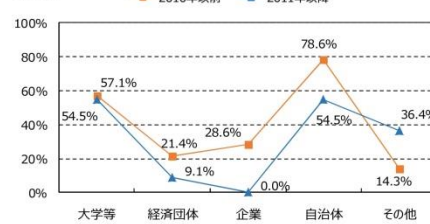
	1グループ	複数グループ	無回答
● 凡例			
連携組織全体 (n= 27)	55.6%	37.0%	7.4%

※「大学等」「経済団体」「企業」「自治体」「その他」の中で、ひとつのグループが予算負担している場合を「1グループ」、2種類以上のグループが予算負担している場合を「複数グループ」に分類

● 各機関が連携組織の予算を拠出している割合（全体（無回答を除く）／自由回答を集計） (n=25)



● 【設立時期別】連携組織の予算の負担機関（全体（無回答を除く）／自由回答を集計） (n=25)



※「その他」は公的機関等からの予算が含まれていると考えられる

15

経済産業省「産学協働インターンシップ等の連携実態調査」調査結果（中間報告）

平成27年度産業経済研究委託事業（インターンシップ等による産学協働教育のための連携基盤構築に関する調査）

継続した連携組織の運営

16

連携組織への参加に対する満足度

- 約7割の大学と自治体は、連携組織へ参加していることに満足している
- 特に自治体は「満足している」が5割近くを占める
- 一方、経済団体は54.9%と、大学と自治体に比べやや低くなっている
- 3機関とも不満の割合は低く、「どちらともいえない」が大学と自治体は約2割、経済団体は約3割となっている

●参加していることへの総合的な満足度（参加している機関／単一回答）

●凡例	満足・計			不満・計		満足・計	不満・計
	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である		
大学 (n=324)	30.9%		38.9%	21.9%	2.5%	5.9%	69.8%
経済団体 (n= 51)	31.4%		23.5%	35.3%	2.0%	5.9%	54.9%
自治体 (n= 40)	47.5%		22.5%	20.0%	5.0%	5.0%	70.0%

17

連携組織の活動内容と効果

- 「インターンシップの仲介」「学生向け事前研修」「学生向け事後研修・成果報告会」の実施率が高く、効果も高い
- 実施率は低いものの、「大学教職員向け研修」「学生向けセミナー」は効果が高い取組となっている
- 「企業向け研修」は「期待以上の効果が出ている」の割合が最も高い

●各活動の効果（実施している連携組織／単一回答）

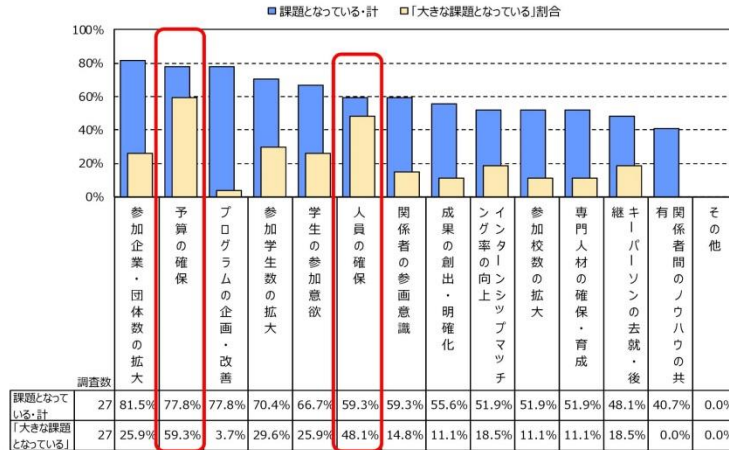
●凡例	効果あり・計				効果あり・計	実施率
	期待以上の効果が出ている	期待通りの効果が出ている	どちらともいえない	期待した効果が出ていない		
インターンシップの仲介 (n= 24)	8.3%	75.0%	12.5%	4.2%	83.3%	88.9%
PBL（課題解決型学習） (n= 6)		66.7%		33.3%	66.7%	22.2%
キャリア講座 (n= 7)		71.4%	14.3%	14.3%	71.4%	25.9%
バズツアー・企業見学 (n= 8)		75.0%		25.0%	75.0%	29.6%
学生向けセミナー (n= 13)	15.4%	69.2%		15.4%	84.6%	48.1%
インターンシップ合同説明会 (n= 14)	14.3%	64.3%		21.4%	78.6%	51.9%
学生向け事前研修 (n= 21)	19.0%	76.2%		4.8%	95.2%	77.8%
学生向け事後研修・成果報告会 (n= 18)	16.7%	61.1%		22.2%	77.8%	66.7%
企業向け研修 (n= 11)	27.3%	45.5%		27.3%	72.7%	40.7%
教材の開発・ハンドブックの作成 (n= 7)	14.3%	57.1%		28.6%	71.4%	25.9%
専門人材（J+T+イニター）の育成 (n= 5)	20.0%	40.0%		40.0%	60.0%	18.5%
大学教職員向け研修（FD/SD） (n= 7)	14.3%	71.4%		14.3%	85.7%	25.9%
その他 (n= 6)		66.7%	16.7%	16.7%	66.7%	22.2%

18

連携組織継続の課題

- 連携組織の活動を継続していく上での課題としては、「参加企業・団体数の拡大」「予算の確保」「プログラムの企画・改善」が8割前後と高い
- 「大きな課題となっている」割合では、「予算の確保」「人員の確保」が突出して高い
- 「プログラムの企画・改善」は課題として挙げられているものの、「大きな課題」とはならない

● 連携組織継続の課題【「大きな課題となっている」と「やや課題となっている」の合計割合】 (全体/各単一回答)



19

連携組織の中長期的な方針や運営計画

- 中長期的な方針や運営計画等を設定している連携組織は4割弱となっている
- 設立時期別にみると、2010年以前に設立した連携組織では56.3%が設定している
- 2011年以降に設立した連携組織は「議論・検討している」「設定したいが議論・検討できていない」割合が高い

● 中長期的な方針や運営計画等の状況 (全体/単一回答)

	調査数	設定している・計					設定している・計	
		明確に設定している	大まかに設定している	議論・検討している	設定したいが議論・検討ができていない	特に設定するつもりはない		無回答
● 凡例								
連携組織全体	(n = 27)	7.4%	29.6%	29.6%	18.5%	3.7%	11.1%	37.0%
設立時期別								
2010年以前	(n = 16)	12.5%	43.8%	18.8%	6.3%	6.3%	12.5%	56.3%
2011年以降	(n = 11)	9.1%	45.5%	36.4%			9.1%	9.1%

20

連携組織に参加したことがない理由

- 連携組織に参加したことがない理由は「参加するきっかけがないため」が最も多い
- 「その他」の理由として「連携組織がその地域にない」との回答が大学、経済団体、自治体ともに複数みられた

● 連携組織に参加したことがない理由 (参加したことがない大学/複数回答) (n=154)



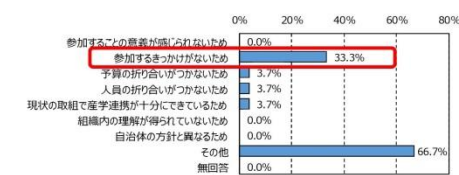
※「その他」回答例:『実習科目が多いため』『連携組織がないため』

● 連携組織に参加したことがない理由 (参加したことがない経済団体/複数回答) (n=37)



※「その他」回答例:『要請がないため』『連携組織がないため』『他の経済団体でインターンシップ協議会が組織されているため』

● 連携組織に参加したことがない理由 (参加したことがない自治体/複数回答) (n=27)



※「その他」回答例:『連携組織がないため』

21

これまでの<まとめ>

連携組織設立と参加状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010年以前に設立した連携組織(設立後5年以上の連携組織)は6割 ● 大学、経済団体、自治体の参加率は6割前後 ● 大学と経済団体は5年以上参加している割合が、自治体はここ5年で参加している割合が高い ● 『地域』が3機関に共通する参加目的であり、連携組織には、学生の地域理解・定着に繋がる人材育成が求められている
連携組織の体制・運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携組織の構築で中心的な役割を果たした機関は「大学・経済団体・自治体」で連携して設立したことが多い ● 構成メンバーでは、2010年以前の連携組織は「企業」「自治体」が参加している割合が多く、2011年以降は「大学」「経済団体」の割合が高い ● 連携組織の運営予算は「自治体」「大学等」が拠出している割合が高い
継続した連携組織の運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 「予算の確保」「人材の確保」が連携組織の継続には大きな課題 ● 中長期的な方針や運営計画等の設定は継続した運営を行っている連携組織の方が実施している傾向がみられる

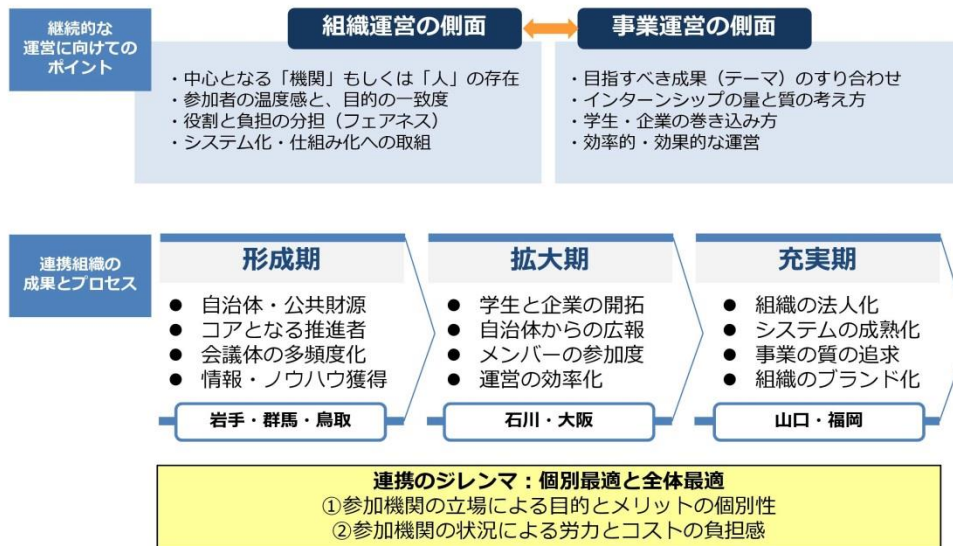
22

各地域に対しての ヒアリング調査

都道府県	連携組織
岩手県	東北インターンシップ推進コミュニティ
群馬県	群馬県インターンシップ推進協議会
石川県	石川県人材育成推進機構
堺市（大阪府）	堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会
山口県	山口県インターンシップ推進協議会
鳥取県	鳥取県インターンシップ推進協議会
福岡県	九州インターンシップ推進協議会

23

各地ヒアリングから見える、 連携組織の成果とプロセス

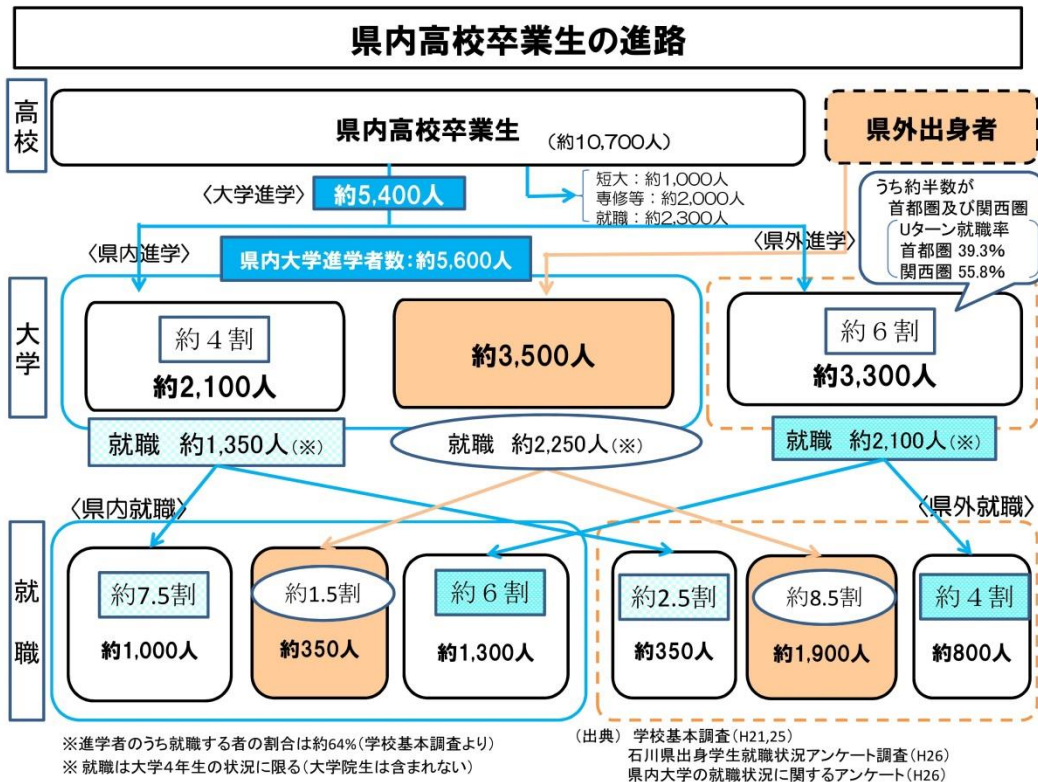


24

いしかわインターンシップの現状

—地元定着を意識したキャリア教育の実現に向けて—

ジョブカフェ石川
インターンシップコーディネーター
門間 由記子



インターンシップアンケート結果

1,600人県内大学調査(H26.10実施)

◇ 90%以上の学生 インターンシップ経験は必要

しかし 大学3年生(就活年次)の50%が参加していないその理由は・・・

- ① 特定企業への志望が不明確で企業選択が困難(37.2%)
- ② 実際の体験内容が事前によく分からなかった(31.5%)
- ③ 自分の目的に合ったプログラムを探すのが困難(26.6%)

フェスで
直接、PR!

◇ 70%以上の学生 インターンシップに参加し「満足」

- ・ 業界への就職意向が上がった(65.1%)
- ・ 企業への就職意向が上がった(52.6%)

その他・・・

- 「企業の業務内容や雰囲気分かった」、「学校では学べないことが学べた」、「自分の希望が明確になった」

いしかわインターンシップ 参加団体・大学の構成

<大学・大学院>

石川県立大学・金沢大学・金沢学院大学・金沢工業大学・金沢星稜大学・金城大学
北陸先端科学技術大学院大学・北陸学院大学・北陸大学

<短期大学>

金沢星稜大学女子短期大学部・金沢学院短期大学・金城大学短期大学部・北陸学院大学短期大学部・小松短期大学

<県外参加大学>

就職協定締結大学である、龍谷大学・立命館大学・京都女子大学他合計32大学

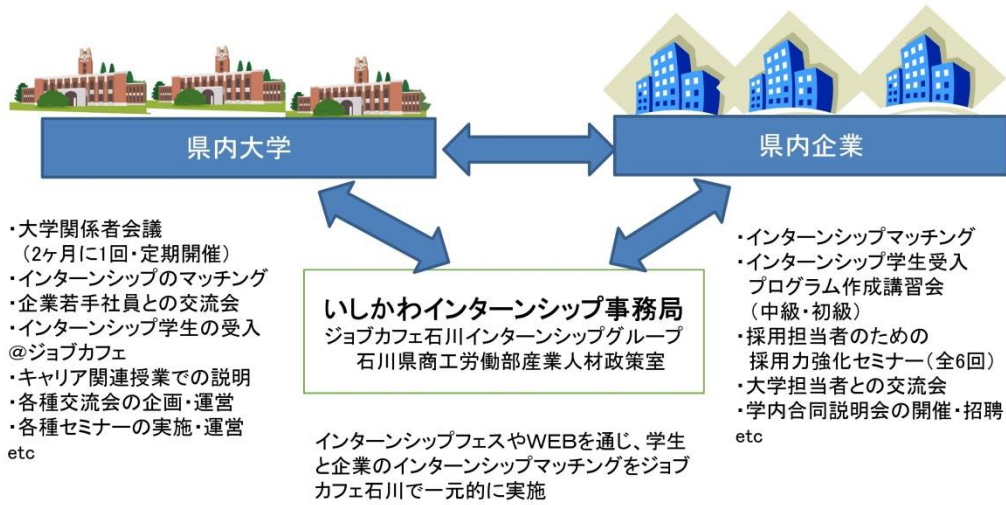
* 県内9大学とは関係者会議で定期的に意見交換を行っている

<参加企業>

石川県内に事業所を持つ企業、93社が参加
(2015いしかわインターンシップの参加企業数)

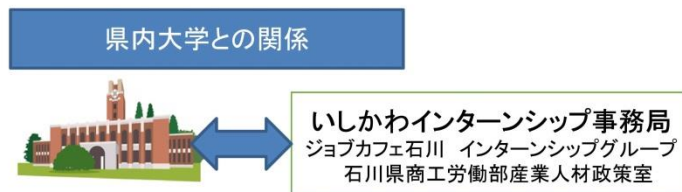
製造業、卸売・小売、金融機関など、全業種の企業が対象
石川県、ジョブカフェ石川も参加

情報窓口の一本化



石川県商工労働部産業人材政策室・ジョブカフェ石川がプラットフォームとなり、行政主導の体制のもと、県内大学と定期的に会議を持ち、大学・学生の意向を確認しながら共にプログラムを進めている。

大学との連携



- * 2ヶ月に1回、定期的に大学関係者会議を実施し、情報共有
 大学: 就職支援の状況、学生の動向等
 県・ジョブカフェ: 県内企業の採用動向、イベント企画案説明等
- * イベント開催時には大学・ジョブカフェ双方からの発信
 キャリア関連科目時に直接、担当者から学生に周知
 学内メールでの連絡、チラシ配布・ポスター掲示
- * 学生のキャリア教育を意識した共同のプログラム開発
 ジョブカフェでインターンシップ学生を受入
 インターンシップ学生の意見を反映するなど、学生・企業双方がwin-win関係となれるような仕組みづくり
 インターンシップフェス→事前研修→実習→交流会、という流れを通じ、仕事のみならず、ライフキャリアを考えることのできるきっかけづくり。
 インターンシップの事前・事後講習会

企業との連携

県内企業との関係



いしかわインターンシップ事務局
ジョブカフェ石川 インターンシップグループ
石川県商工労働部産業人材政策室

<情報発信>

* 就職支援サイト「ジョブNAVI石川」<https://jobnavi-i.jp/>

(石川県商工労働部・ジョブカフェ石川運営:370社)

登録企業に各イベント時に参加呼びかけ・周知



<ジョブカフェによる企業支援プログラム>

- * インターンシップ学生受入プログラム講習会
 - * インターンシップマッチング・連絡・調整(フェス・Web)
 - * 若手社員教育や採用につながる大学生との交流会
 - * 学生とのコミュニケーション力を学ぶ採用力強化セミナー
 - * 県内外大学での学内合同就職説明会の開催
- …各種セミナーやインターンシップ、イベント参加費用は無料

H27いしかわインターンシップ 年間スケジュール

<目的>

就職活動前の大学低学年時(主に大学3年生)に県内企業と出会い、就業体験や様々な交流機会を通じ、ライフキャリアを考える機会を設ける。

- ①5月10日: **インターンシップフェス(イベント)**
…28年は収容人数の多い会場に変更し、1,000人を目標に5月14日(土)に開催!
- ②5月26日~6月10日: **Webマッチング**
- ③6月20日~7月4日: 事前講習会(全6回)
- ④8月上旬~10月下旬: 個別企業にてインターンシップ実習
- ⑤10月17日: いしかわで働く本音トーク(女子会)
- ⑥11月7日: いしかわで働く本音トーク(エンジニアリング企業の会)
- ⑦11月24日: 事後報告会(学生・企業・大学の3者が参加)
- ⑧12月26日: 就活事前準備講座(午前)
冬の企業見学会・業界研究セミナー(午後)
- ⑨1月上旬~2月下旬: 個別企業にて1dayインターンシップ等を実施
- ⑩2月13日・20日: 就職活動前最後の企業人事担当者との交流会
- ⑩3月12日: ふるさと就職フェア

2015 いしかわインターンシップ:夏フェス&Web

<インターンシップフェス@地場産業振興センター:5月10日(日)>

参加企業:93社(業界型22社)、参加学生:623名(県外学生44名含)

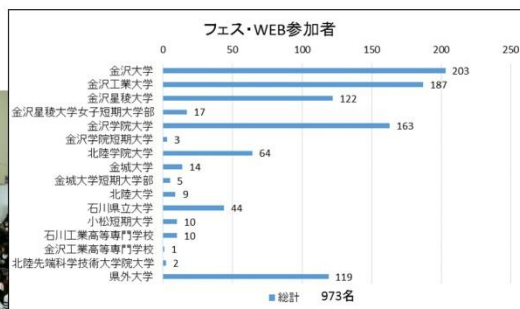
インターンシップ申し込み学生数:507名

マッチング決定:374件(マッチング率73,7%)

<Webマッチング>

インターンシップ申し込み学生数:344名(県外学生75名含)

マッチング決定:241件(マッチング率70%)



2015年 インターンシップフェス当日の流れ

<当日の流れ>

- ①11時30分受付開始
- ②12時30分~13時:本日の流れ&注意事項のガイダンス
- ③13時10分~14時30分(20分×3回):企業ブースでのインターンシップ概要説明
*学生はプログラムを参考にブースを回る(第1~3回説明タイム)
- ④14時30分~15時:フリータイム
*3社以上回り、3つ以上のシールをもらった学生はノベルティグッズと交換
*3社以上回ってもらうためのしかけ
- ⑤15時~15時30分:企業説明+質問フリータイム
- ⑥15時30分~16時:希望企業ブースへ参加申込書を直接、提出
受付にはアンケート、希望企業リストを提出(学生)



インターンシップフェス マッチングの流れ

- ①希望企業リスト×学生受入リストの突き合わせ
 学生・第3希望まで記載した希望企業リストをフェス当日、受付に提出
 企業・学生受入希望順リストを後日、ジョブカフェまで提出
- ②マイページに表示&メール送付
 企業・学生の双方にマッチングが成立した旨を連絡
 学生・企業の各マイページにも表示される
 大学にマッチング学生名簿+マッチング企業一覧(担当者連絡先入)を送付
 一覧を送る
- ③企業担当者から学生に期日までに連絡
 実習開始前の手続き・準備等を進める
 * 2016年からは学生→企業担当者へ連絡、と変更。



Webマッチングの流れ

- ①第5希望までリストに記載×定員リストの突き合わせ
 学生・第5希望までインターンシップ希望企業を選択
 企業・受入定員まで学生を受入。
- ②マイページに表示&メール送付
 企業・学生の双方にマッチングが成立した旨を連絡
 学生・企業の各マイページにも表示される
 大学にマッチング学生名簿+マッチング企業一覧(担当者連絡先入)を送付
 一覧を送る
- ③企業担当者から学生に期日までに連絡
 実習開始前の手続き・準備等を進める
 * 2016年からは学生→企業担当者へ連絡、と変更

- ◎フェス、Webと両方参加の学生を優先的にマッチング
- ◎Webマッチングでは企業は学生を選考しない
- ◎大学就職支援窓口・企業で保険加入状況確認と覚書の締結。
- ◎参加前までに学生は誓約書を提出。

ジョブカフェインターンシップ学生について

概要: 大学3年生を対象とし、どこで・何をして働き、暮らしていくのかについて、就職・仕事・生活と「ライフキャリア」について考えるイベントの企画・運営

目的: 「学生の学生による学生のための就職支援イベント」の企画・運営を通じ、自分自身の就職や働き方について考えること

活動: ①交流会イベントの企画・運営・広報
②企業の採用担当者向けセミナーの運営

構成: 6大学、10名

実施時期: 7月から11月までの長期インターンシップ

①交流会チーム(女子会・エンジニアリング企業の会担当)

②採強道場チーム(いしかわ採強道場担当)

①・金沢大学、同志社大学、北陸学院大学、金沢学院大学
金沢星稜大学、金城大学



2015 いしかわインターンシップ:女子会

<女子会ワールドカフェ「いしかわで働く本音トーク」>

10月16日(金) @ しいのき迎賓館(ポール・ボキューズのケーキとお茶付)

参加企業: 9社(製造業・マスコミ・IT系企業等)、参加学生: 43名

- ①1テーブル学生5~6名、若手社員1名の少人数で話しやすい雰囲気
- ②所属大学でのポスター配布、地元テレビでのPRやSNSの発信等、インターンシップ学生による学生目線の広報
- ③学生・企業双方がwin-winの関係にある

学生: 若手社員との交流を通じ、「働くこと」や「就職活動」に対する不安の軽減
企業: 早期からの学生へのコンタクト、事業概要を知ってもらうきっかけ
いしかわで働くこと、暮らすことに対する具体的なイメージを作る



2015 いしかわインターンシップ エンジニアリング企業の先輩と話す会

<エンジニアリング企業の先輩と語る会「いしかわで働く本音トーク2」>
11月7日(土)@学生のまち市民交流館(森八の和菓子とお茶付)
参加企業:8社、参加学生:20名

- ①1テーブル学生3~4名、若手社員1名の少人数で話しやすい雰囲気
- ②インターンシップ学生作成の参加者紹介動画+パネルクイズの形式
現場にいなくても具体的な業務がわかる仕掛け
- ③学生、企業それぞれにメリットがある
学生:進学・就職の選択も含め、ライフキャリアを考えるきっかけ
企業:早期段階から学生とコンタクトできる、若手社員のモチベーションアップ



2015 いしかわインターンシップ:企業採用支援

<いしかわ採強道場:採用担当者向け採用力強化セミナー:全6回>
10月8日(木)スタート 参加企業:20社、講師:常見陽平氏

- ①学生・企業、双方による情報交換(ジョブカフェインターンシップ学生が参加)
学生:就職(採用)活動は企業も大変なことを知り、不安が軽減
企業:学生の現状を知り、学生に響く自社の魅力について学んだ
- ②学生・企業、双方が伝える技術を学ぶことができる
学生:企業の担当者へのインタビューや発表を通じ、プレゼン力を鍛える
企業:学生に響く情報の発信方法や表現を学ぶことができる
- ③学生・企業、双方が自分の活動を直すきっかけとなる
学生:自分がどこで・何をして・どのように働いて期待のかを再検討
企業:自社の魅力とその発信方法(インターンシップ、Web等)を再検討



2015 いしかわインターンシップ:企業採用支援

<インターンシッププログラム作成講習会>

初級:1月29日、参加企業:20社

中級:1月28日・29日、参加企業:8社

講師 ジョブカフェ インターンシップコーディネーター 門間由記子

目的:インターンシッププログラムの質の向上

参加企業のメリット

①自社の魅力の問い直し

自社の魅力とその伝え方を考えるきっかけ

②社内コミュニケーションの円滑化

受入体制の確立に向け、社内で受入チームを構築
そのために他部署と連携し、互いに業務内容を知る

③企業同士のネットワークを構築する

業種を越えて、人事担当者同士のネットワークを構築

④社員教育

自社の魅力について考え、発信する機会
ワーク中心の講習+発表によるプレゼン力の向上



2015 いしかわインターンシップ:冬フェス

<冬の企業見学会&業界研究セミナー>

12月26日(土)スタート 参加学生:249名(県内9大学+県外23大学より参加)

参加企業:40社(製造業・マスコミ・金融・ITと多業種)

マッチングまでは行わず、企業と学生間で連絡・調整してもらう

①就職活動前最後の学生×企業担当者の交流機会

学生:企業の担当者と近い距離で直接、話することができる

企業:多くの学生と早期に接点を持ち、情報を提供することができる

②他大学の就職動向を知ることができる

学生:他大学の学生と会うことで、自分の就職活動の状況を確認

企業:Uターン希望者も含め、様々な大学の動向を知ることができる



事前研修会・事後交流会

- ・事前研修会：インターンシップの目的意識の形成
ビジネスマナーの習得、仲間づくり
- ・事後交流会：インターンシップの振り返り
未来予想図設計ワーク&共有
(5年後・10年後の自分)
自己PRワークショップ

インターンシップ実習によって明確化し始めた、「就職活動」や「働くこと」への意識をさらに高めるため5年後・10年後の自分の未来予想図を具体的に描き、参加者同士で発表・共有する。



- ・不安や疑問の解消、企業との交流機会創出のため、少人数の各種交流会を設定
- ・仕事概要だけでなく、就職活動、家庭と仕事の両立、現在の生活の様子についても話を聞くことで、石川県で働く自分の未来を具体的に考えてもらう機会とする



業界インターンシップ

石川県の基幹産業でのインターンシップを通じ、各業界の魅力に触れるとともに「石川県で働き、暮らすこと」の魅力を知り、トータルライフキャリアを考えるきっかけとする。

<鉄工業界>

コマツ粟津工場でのオリエンテーション
コマツ・サプライチェーン企業3社×2日の
インターンシップ実習

<食品業界>

佃煮や生麩、練り物など、石川県らしい食品の製造
メーカー3社×2日のインターンシップ実習

<IT業界>

ベンチャー系と県内大手システム系の各社で
3社×2日のインターンシップ実習

<繊維業界>

開発・研究・製造に一貫して取り組む繊維企業
2社×2日のインターンシップ実習



金沢大学COCプラス事業

金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成

事業期間:平成27年度～平成31年度

参加大学:金沢大学(幹事校)、金沢工業大学、金沢学院大学、金沢星稜大学、
金城大学、石川県立大学、石川県立看護大学、北陸大学

対象地域:石川県全域(加賀・能登・金沢:地域特性の異なる3つの地域)

<学卒者(若者)の地元定着・地域定着雇用増に向けた3つの取り組み>

1、ICT教育カリキュラムの開発・実施

2、**新インターンシップの開発・実施**

*各地域における優良企業とのマッチングを実施

3、起業環境構築「innova-emotion」

地域思考型教育

石川県内の
就業率向上
10%

新インターンシップの開発・実施は、いしかわインターンシップの枠組みを活用

大学・企業・行政とのwin-winによる産官学連携の関係

学生受入プログラム開発・マッチング・交流会・各種セミナーの実施

ライフキャリアを意識した通年のプログラム

実務担当者+COC担当教員を加え、教育効果のさらなる向上

2016 いしかわインターンシップの新たな取り組みと課題

①cocプラス事業との協働

・就職支援担当者(実務担当)に加え、教員も大学関係者会議に参加することで、さらにキャリア教育を意識する

②ライフキャリアを意識した教育プログラムの実施

・3年生の5月のインターンシップフェスから3月のふるさと就職フェアまで、事前研修、事後の様々な交流会の開催を通じて、仕事のみならず、生活も含めてライフキャリアを考えることのできるプログラムとしていく

③参加学生数・受け皿企業の拡大

・参加割合の高い文系学生のニーズに応えられるよう、受け皿となる参加企業に金融・マスコミ・運輸等にも協力を依頼

・県内各大学から参加希望企業の要望を受け、事務局に参加を依頼

・県内のみならず、協定大学を中心に県外大学でも説明会やはがき送付を行うことで、年間を通じたイベントの紹介→参加学生数の1,000名越えを目指す!

③理系学生の参加強化

・製造業の多い石川県では理系学生が求められているため、研究室と直接つながり、学生に情報が届く体制の構築を目指す。

④多様な交流機会の創出

・テーマ別交流会の開催等により、学生と企業の接点を増やし、互いの意識を変えていく。

地域連携組織によるインターンシップの推進



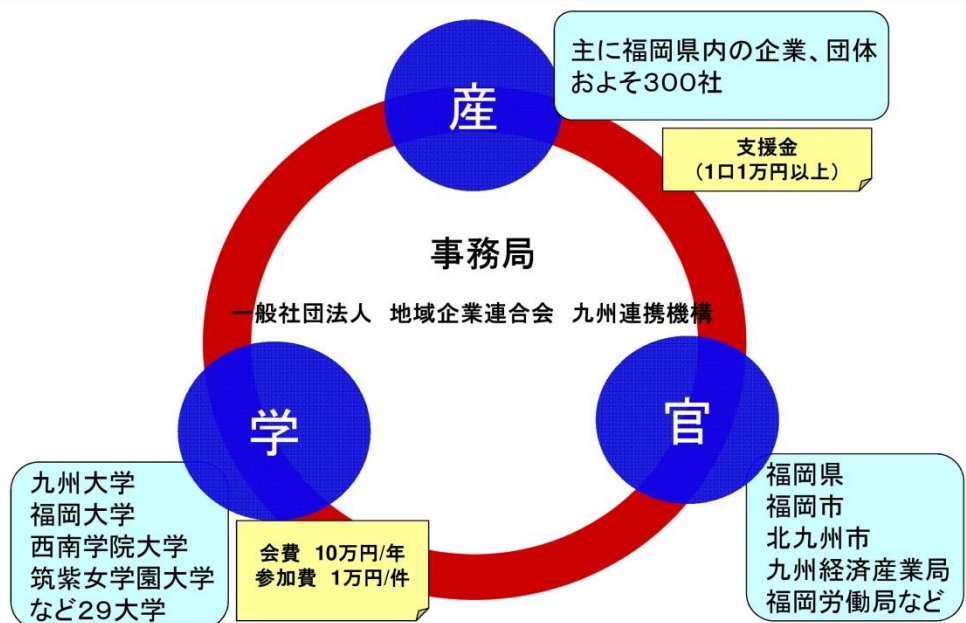
九州インターンシップ推進協議会について

2016年2月26日(金)
理事・事務局長 古賀正博

九州インターンシップ推進協議会とは？



産学官でインターンシップの推進を行う地域コンソーシアム



九州インターンシップ推進協議会とは？



～加盟大学～ 29大学

九州大学・九州工業大学・福岡教育大学・北九州市立大学・西南学院大学
 福岡大学・九州産業大学・福岡県立大学・久留米大学・筑紫女学園大学
 中村学園大学・福岡女学院大学・九州国際大学・九州共立大学・九州女子大学
 西南女学院大学・福岡女子大学・福岡工業大学・近畿大学産業理工学部
 福岡国際大学・久留米工業大学・九州歯科大学・日本経済大学・産業医科大学
 西九州大学・西日本短期大学・福岡工業大学短期大学部
 福岡女学院大学短期大学部・香蘭女子短期大学

～受入企業～ 411社（平成27年10月末現在）

福岡法務局・福岡労働局・福岡県・福岡市・北九州市・久留米市・筑紫野市・古賀市・篠栗町
 九州電力(株)・(株)西日本シティ銀行・西部ガス(株)・(株)九電工・西日本鉄道(株)
 TOTO(株)・NTT西日本・コココーラウエスト(株)・福岡トヨタ自動車(株)・(株)谷川建設・(株)ポーラ
 福岡労働局・福岡商工会議所・エフコープ生活協同組合・植田会計事務所・(株)柴田建築設計事務所
 福岡空港ビルディング(株)・シャボン玉石けん(株)・(株)ティーアンドイー・(株)ハウインターナショナル
 のこのしまアイランドパーク・鳥栖商工会議所・(株)平山旅館・(株)おおよま夢工房
 (一財)カンボジア地雷撤去キャンペーン・NPO法人九州海外協力協会・NPO法人九州プロレス etc・・・

2

九州インターンシップ推進協議会とは？



沿革

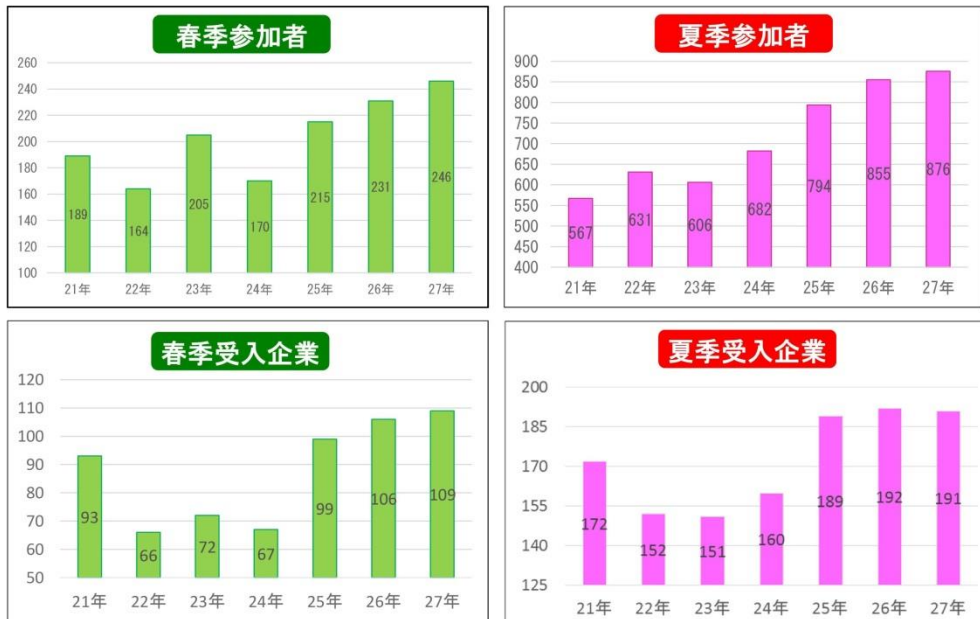
平成9年9月	インターンシップに関する基本的認識及び今後の推進方策を明らかにするため、通産省・労働省・文部省(いずれも当時)が「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」を公表。
平成10年3月	インターンシップの試験的な実施(春季) 参加大学:4大学、参加者:31名、受入企業:11社
平成10年7月	インターンシップの試験的な実施(夏季) 参加大学:4大学、参加者:44名、受入企業:21社
平成11年11月	第1回九州地域インターンシップ推進連絡協議会開催
平成12年8月	福岡県インターンシップ推進協議会設立
平成14年8～9月	本格的なインターンシップを開始 参加大学:20大学、参加者:243名、受入企業:84社
平成23年5月	名称を九州インターンシップ推進協議会へ変更
平成26年4月	経産省・厚労省・文科省が「インターンシップ推進に当たっての基本的な考え方」を改訂。
平成27年2～3月 8～9月	中期実践型インターンシップの試験的な実施(春季・夏季)

3

参加者・受入企業数の推移



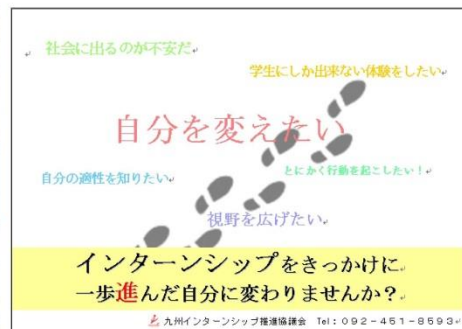
平成25～27年は1,000名以上の学生がインターンシップを実施



学生スタッフについて



目的: 学生、社会に対してインターンシップの意義、メリットを伝える
 活動: 学生のインターンシップへの参加促進、広報活動
 インターンシップ事前研修会、事後研修会の企画・運営、企業取材など
 構成: 10大学、19名 ※主にインターンシップを経験した学生
 久留米大学、近畿大学、西南学院大学、西南女学院大学、筑紫女学園大学、福岡県立大学、
 福岡工業大学、福岡女学院大学、福岡女子大学、福岡大学



実践例(1) 標準的インターンシップ



約2週間(実働10日間)が最も多い事例

導入	実施	クロージング
<ul style="list-style-type: none"> ・経営トップからの理念 ・創業期の話 ・学生への期待発信 	各現場にて <ul style="list-style-type: none"> ・営業同行 ・事務補助 ・電話、接客対応 ・従業員からの体験談 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・企画提案のプレゼン



6

実践例(2) 中期実践型インターンシップ



事業内容:お弁当・惣菜の製造・販売 等

ポイント

- ・新店舗の開発計画あり
- ・新商品開発計画あり
- ・人手不足

狙い

- ・社会貢献
- ・新商品開発・販売

《実施内容》

- ・店舗にて調理・接客 ・POPやチラシの作成
- ・顧客ニーズのヒアリング
- ・同業他社の調査・分析 ・試作品の作成
- ・試食会の実施 ・販売促進活動

他

新店舗における6週間の
新商品開発プロジェクト
※3大学混成チーム



7

中期実践型インターンシップ実施内容



期間：【春季】2月中旬～3月下旬(6週間) 【夏季】8月中旬～9月中旬(4週間)
 受入企業数：【春季】5社 【夏季】8社 / 参加学生数：【春季】11名 【夏季】16名
 参加大学：福岡県立大学・福岡工業大学・西九州大学

プロジェクトの内容	受入先
新店舗における市場調査と新商品の企画・開発・販売促進	路面店型の惣菜店
新システム開発における市場調査・企画立案・システム開発・デモ会の実施	ITコンサルティング企業
就活生向けワーク・ライフバランスが実現出来て働き易い企業 ガイドブックの作成／ニーズ調査・企業インタビューの実施	ワーク・ライフマネジメント コンサルティング企業
サッカー関連施設で販売する食品のメニュー開発	スポーツ関連企業
新規教室開設に向けてのニーズ調査	学習塾
農村の現状とニーズを調査・ヒアリング／農業体験イベントの企画・運営	NPO法人
社会問題解決の為にスタディーツアーの企画・プレゼンテーション	ツアー企画運営・旅行会社
ネットスーパーの運營業務／会員(個人・法人)獲得／同業他社の調査	食品スーパー
フリーマガジンおよび広告全般に関する(個人・法人向け)調査・分析	雑誌・編集社
直売店舗(魚市場内)改善の企画・提案・実行／顧客ニーズの調査	魚市場
伊万里焼の窯元インタビュー／器(伊万里焼)に合うレシピ開発	飲食店・食品メーカー支援業
採用ページの企画・制作／社員のインタビュー	ITコンサルティング企業
年に1度の感謝祭に向けての広報活動／店舗実習	路面店型の惣菜店

8

実践例(3) PBL型インターンシップ



キャリアスクーププロジェクトプロジェクト(福岡中小企業経営者協会)

地場中小企業へのインタビュー(取材)と記事作成をインターンシップを活用して学生が行う。企業の隠れた魅力や経営者の生き様など学生が深掘し、Webサイト(CREREA)を中心に情報発信を行う。取材活動はチーム制で行い、社会人メンター(ボランティア)が指導を行う。

<実施スケジュール>



※取材内容の例

- ①社長取材(起業のきっかけや仕事への想い)
- ②社内見学や商品・サービスの説明
- ③「仕事人」取材(仕事場密着)

9

課題解決に向けて

■ 広域推進

九州広域推進モデルの確立
統一ルール 相互扶助システム(宿泊施設提供など)

■ 中長期実践型の推進

実践型推進
コーディネート人材の育成

■ 中小企業の推奨

キャリアスコーププロジェクトの拡充
夏の地域定番イベント化

■ 地域課題との連動

6次産業
インターン

ポストク
インターン

リーガル
インターン

■ グローバル人材育成

留学生インターン

海外インターン

【資料5】事例3

山口県における産学公連携の取り組み



山口県インターンシップ推進協議会の事例

山口大学学生支援センター 教授
平尾元彦

2016.2.26

1

現状認識編

地方におけるインターンシップの意義
地方におけるインターンシップ拡大の壁
インターンシップ4主体の思惑

取り組み編

山口県インターンシップ推進協議会
実績 推移 特徴 組織 目的 課題
新たな取り組み

まとめ編

山口県インターンシップ推進協議会の課題

2

現状認識編 地方におけるインターンシップの意義

高校生の●割は県外へ

進学で県外へ出た若者が、戻ってこない
県内学校への進学者も、就職では県外へ
地域の将来を担う人材への危機感 ⇒ 地方型人材の育成

一方で、
就職難と採用難の同時進行 活躍する人材が不足
学習意欲の低下、就職意欲の低下
自ら考え自ら行動する人材育成は喫緊の課題
⇒ 自律型人材の育成

インターンシップは効果がある・・・としておこう

3

現状認識編 地方におけるインターンシップ拡大の壁

- ① 通勤問題 自宅・下宿から通勤できるか
地方は車社会 自動車通勤できない学生
コストを上回る便益が得られるかの確信
- ② 産業・企業の偏在
学生の希望と県内事業所のギャップ
| T・国際・研究・マスコミ・出版・・・
- ③ 情報格差 学校からの情報が中心
就職ナビのほかに他県の情報は入りにくい

地域協議会は重要な役割を果たす・・・としておこう

4

現状認識編 地方におけるインターンシップ拡大の壁

④ 質の問題

学生によるインターンシップの自己評価

参加して「良かった」率 96.5%

良くなかったことの記載率 54.4%

⇒ 期待と現実のギャップ

学生がインターンシップに参加しない理由

わからない 時間が無い 面倒くさい

外部からのネガティブな情報 16.1%

5

現状認識編 地方におけるインターンシップ拡大の壁

④ 質の問題

求められる

効率的 ・ 効果的

なインターンシップの実施体制

地域協議会は重要な役割を果たす・・・ことができるだろうか？

6

現状認識編 インターンシップ4主体の思惑 ～ ホンネで



7

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

特 徴

- ① 県内の学校を中心に産学公連携組織を運営
- ② 県外学校の学生たちを積極的に受け入れる
- ③ インターンシップだけじゃない多彩な活動

8

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

実績（平成26年度）

受入可能事業所 428 受入事業所 250

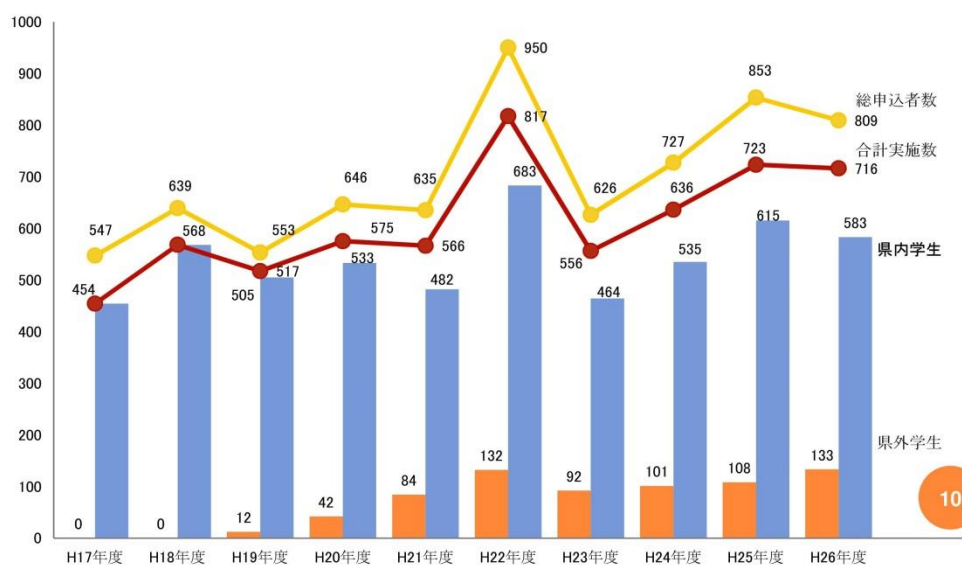
申込数 809 実施 716 実施率 88.5%

県内16校 583 県外校 133（県外率18.6%）

9

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

推移



10

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

運営の特徴

- ① 産学公連携による地域インターンシップ推進組織
会長・運営委員長は山口大学 事務局は経営者協会
全校参加の体制づくり 山口はひとつ！
- ② 会費による運営と県からの委託事業
- ③ 学生の応募と企業への依頼を一本化
- ④ 正課・正課外にかかわらない
- ⑤ 県内・県外のかかわらず、すべての学生を受け入れ

11

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

組 織

会 長 岡 正朗（山口大学 学長）
副会長 田村浩章（山口県経営者協会 会長）
顧 問 山口県商工労働部長 厚生労働省山口労働局長

● 加入正会員 16校 5団体

山口大学	水産大学校
山口県立大学	大島商船高等専門学校
下関市立大学	徳山工業高等専門学校
徳山大学	宇部工業高等専門学校
山口学芸大学・山口芸術短期大学	専門学校YICグループ
宇部フロンティア大学	
宇部フロンティア大学短期大学部	山口県経営者協会
山口東京理科大学	山口経済同友会
東亜大学	山口県商工会議所連合会
梅光学院大学	山口県商工会連合会
至誠館大学	山口県中小企業団体中央会

12

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

目 的

山口県の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、学生が企業等へのインターンシップ事業を通じて、高い職業意識の育成を円滑かつ効率的に推進し、県内の高等教育全体の資質向上に資するとともに、山口県の経済社会の活性化に貢献することを目的とする。

13

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

事業運営

- 夏のインターンシップ 職場受入・就業体験が基本
5日間以上を基本とするが長期も短期もあり。柔軟に
第一次申込締切 6月10日
第二次募集 7月中 実施8～9月
- 春のインターンシップ 夏と同様
申込締切 1月15日 実施2～3月

年間 700名ほどの学生のインターンシップを
山口県内事業所で実現する

14

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

多彩な取り組み

山口県インターンシップ推進協議会は、
県内学校によるキャリア教育の推進主体として、
県内企業・地域社会とともに学びを創出していきます。

① 教職員勉強会

就職活動後ろ倒しと求められる就職支援
障害を持つ学生の就職支援 など

15

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

多彩な取り組み

山口県インターンシップ推進協議会は、
県内学校によるキャリア教育の推進主体として、
県内企業・地域社会とともに学びを創出していきます。

① 教職員勉強会

② 1 day 学習会 産業界の協力のもと実施する学習会

17

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

多彩な取り組み

山口県インターンシップ推進協議会は、
県内学校によるキャリア教育の推進主体として、
県内企業・地域社会とともに学びを創出していきます。

- ① 教職員勉強会
- ② 1 day 学習会 産業界の協力のもと実施する学習会
- ③ やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェア

19

山口

やまぐちインターンシップ & キャリア学習フェア2014冬

日時

2014
12月25日(木)
10:00-17:00

会場

山口グランドホテル
(新山口駅新幹線口正面)

【申込】
事前申込不要

【参加企業】
12月2日以降山口県インターンシップ推進協議会のホームページをご覧ください

【問い合わせ】
cohrd@yamaguchi-u.ac.jp
担当：田中

■スケジュール■

10:00 開会行事
<午前の部>
インターンシップスピーチ大賞(学生発表)

12:20 昼休憩

13:20 <午後の部>
参加企業紹介
企業講演会・ブース訪問

17:00 閉会



やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェアとは

山口の企業と出会い、企業への理解を深め、「はたらく」ことを学ぶフェアです。県内企業が多数参加予定です。業界・企業研究やインターンシップの情報収集などに役立ちます。

午前中は「インターンシップスピーチ大賞」を開催します。他の学生のインターンシップ経験を聞いて、自分の経験を振り返ったり、これから参加するインターンシップの準備をすることが出来ます。午後からは企業ブースを自由に訪問できます。

- 途中入退出自由
- 自由訪問
- 全学年対象(学部1~2年生も参加してください)
- 服装自由(指前着で参加してください)

主催：山口県インターンシップ推進協議会 共催：山口大学 山口県経営者協会 協力：山口県(山口県若者就業支援センター)

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

多彩な取り組み

山口県インターンシップ推進協議会は、
県内学校によるキャリア教育の推進主体として、
県内企業・地域社会とともに学びを創出していきます。

- ① 教職員勉強会
- ② 1 day 学習会 産業界の協力のもと実施する学習会
- ③ やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェア
- ④ やまぐち総合ビジネスメッセ 経営者が夢を語る

27

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

多彩な取り組み

山口県インターンシップ推進協議会は、
県内学校によるキャリア教育の推進主体として、
県内企業・地域社会とともに学びを創出していきます。

- ① 教職員勉強会
- ② 1 day 学習会 産業界の協力のもと実施する学習会
- ③ やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェア
- ④ やまぐち総合ビジネスメッセ 経営者が夢を語る
- ⑤ 地域コラボ会 産学協働教育の勉強会

パネルディスカッション
学生・企業双方にメリットのあるインターンシップを実現するために

29

インターンシップは 教育プログラムです。

ぜひ、一緒に。

見た、聞いた、行った、だけにならないように。
この夏のインターンシップが、学生にとってよい経験になりますように。
以下の点を、一緒に考えていただけると幸いです。

体験から経験へ。

インターンシップは就業体験と訳されます。たしかに仕事を体験するのですが、そこにとどまらず、良い経験であってほしい、やったことが重要なのではない、そこから何を感じたのか。その経験が、次にどのようにつながっていくのか、そこを考えたいと思っています。ぜひ、一緒に。

学びの仕込みが重要です。

社内で研修を企画するとき、研修の狙いや目標、日常業務とのつながり、そして、長期的な社員の成長を熟考し、企画するはずですが、インターンシップも同じこと。数日間一緒に過ごすことが、その人の日常の活動（それはおそらく勉学）にどのようにつながり、長期的な成長を促すのか、しっかり仕込んで、成果をあげる。できたらいいなと思っています。ぜひ、一緒に。

交流重視。説明は、ほどほどに。。。

インターンシップに参加した学生たちの否定的な意見に、「説明ばかりだった」があります。わかってもらおうと説明に力が入る企業の皆さまの気持ちはわかります。が、採用選考の説明会であれば必要なことでも、この場はちよっと違う。逆に好評なのは、社長さんとの交流、若手社員との交流です。説明会でできないことをインターンシップで実現する。じゃあ何ができるかを、考えたいと思っています。ぜひ、一緒に。

事前学習でモチベーションアップ ↑

とは言え、短い時間で会社のことをわかってもらうのは難しい。確かにそのとおりです。ここに家庭学習を組み合わせることで効率的にできないかと思っています。事前に課題を与えれば、会社パンフレットを送って読んでもらうとか。なにが効果的かを考えたいです。ぜひ、一緒に。

知性を磨く。インターンシップをその機会に。

身体を動かして働くこと。これとても大切ですが、仕事の多くはそういうものだから。一方で、それだけでない現実もあります。アイデアを出すこと、交渉すること、知識を身につけて活用すること。これも大切な仕事のスキル。働くとは、アタマを使うことだという現実を理解させ、日々の学業への意欲を高めることができたらいいなと思っています。工夫が必要です。一緒に考えていただけるとありがたいです。

お土産は、「もっと勉強したいといけない」と思う気持ち。
インターンシップの学生たちに、ぜひ、持たせてあげてください。

山口大学学生支援センター 平尾元彦

30

一緒に

31

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

多彩な取り組み

山口県インターンシップ推進協議会は、
県内学校によるキャリア教育の推進主体として、
県内企業・地域社会とともに学びを創出していきます。

- ① 教職員勉強会
- ② 1 day 学習会 産業界の協力のもと実施する学習会
- ③ やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェア
- ④ やまぐち総合ビジネスメッセ 経営者が夢を語る
- ⑤ 地域コラボ会 産学協働教育の勉強会

企業・行政・学生・大学の連携強化
によるインターンシップ拡大へ

32

取り組み編 山口県インターンシップ推進協議会

課 題

- 財政問題 : 県からの委託事業と会費(学校の負担)
- 県外強化 : 地域に果たす協議会のミッション
規模拡大効果によるメリット獲得
- 学習機会 : すべての学生に学びの機会を
意識の低い学生にも
量的拡大は重要な課題
- 参加拡大 : 学生ニーズにあった実施方法の開発
- 教育効果 : おまかせお願いベースから
新しい“協働”の関係へ 一緒に!

地域協議会の役割は大きい...とてとても

33

平成28年2月26日(金)
スペースニオ(日本経済新聞社 東京本社ビル2階)

南大阪地域大学コンソーシアム

【資料6】 事例4

堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会
～市単位での産学官参画による取組～




堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会
南大阪地域大学コンソーシアム
コーディネーター 難波祐美



南大阪地域大学コンソーシアム

目次

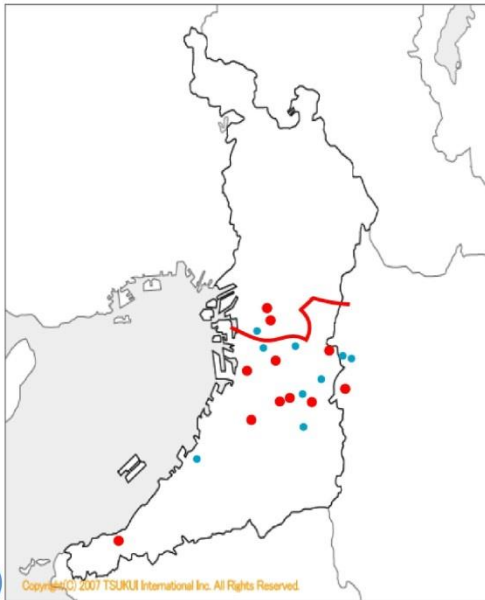
1. 南大阪地域大学コンソーシアムについて
2. 堺・南大阪地域のインターンシップ推進協議会について
3. インターンシップ事業について
4. 成果と課題、今後の展望



1. 南大阪地域大学コンソーシアムについて

3

特定非営利活動法人 **南大阪地域大学コンソーシアム**



4

団体会員 13大学・短大・専門学校

大阪芸術大学、大阪女子短期大学、大阪府立大学、大阪大谷大学、帝塚山学院大学、羽衣国際大学、プール学院大学・プール学院大学短期大学部、桃山学院大学、清風情報工科学院、和歌山大学、近畿大学生物理工学部、高野山大学

個人会員9大学・短大・学部

大阪観光大学、大阪健康福祉短期大学、大阪千代田短期大学、大阪府立大学、大阪市立大学、大阪芸術大学短期大学部、関西福祉科学大学、太成学院大学、阪南大学

設立経緯

- ・堺市の政令指定都市に伴う学術機能の設立
- ・大阪で最も早くNPO法人化

Copyright © 2007 TSUKUI International Inc. All Rights Reserved.

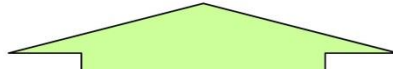
南大阪地域大学コンソーシアムが目指すもの



・ **地域の学術機能の向上**



・ **産学官地域連携の推進**



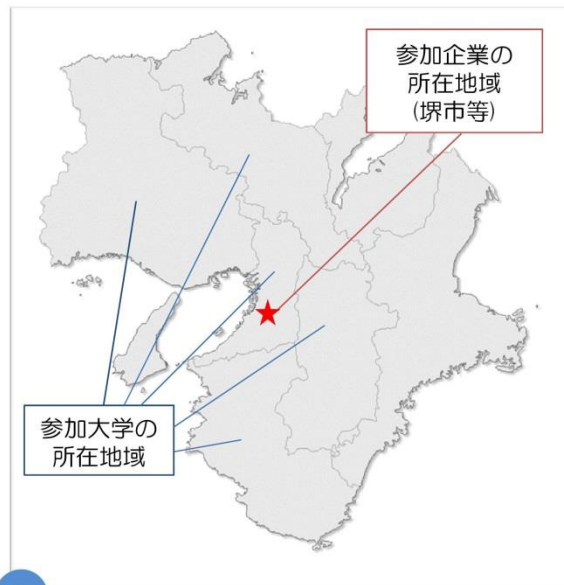
5

学生の活動支援を主眼にした事業を展開
— 大学では出来ないことを中心に事業を展開

2. 堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会について

6

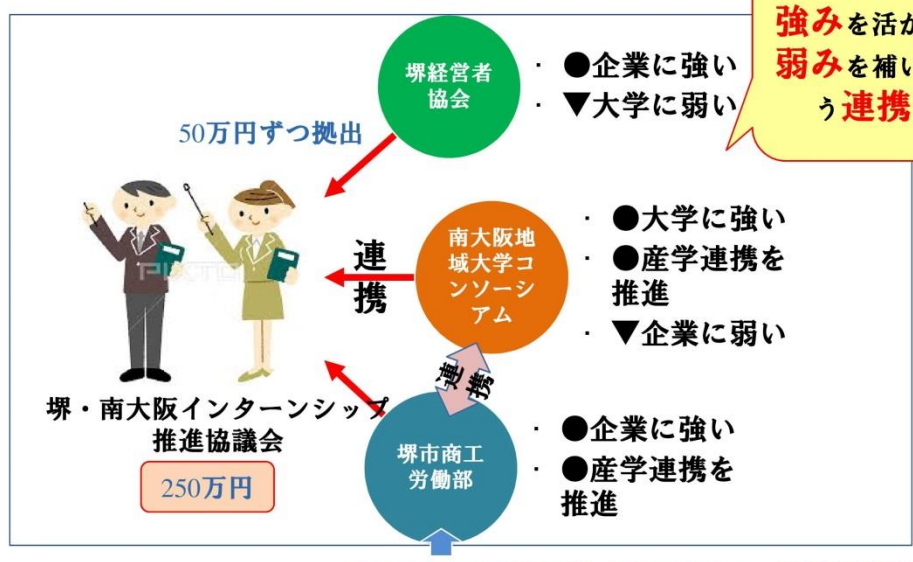
堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会



- 構成団体**
- ・堺経営者協会
 - ・南大阪地域大学コンソーシアム
 - ・堺市
- 参加大学(平成27年度)**
- 36大学
その他近畿職能開発大学校、高等専門学校
- 参加企業(平成27年度)**
- 110社(81企業16行政10保育園3プロジェクト)
- 設立経緯**
- ・平成11年度: 南コンソと近隣大学と堺市がインターンシップを開始(コンソの前身が実施)
 - ・平成14年度:
 - 堺経営者協会がインターンシップを経済産業省の事業として開始
 - 南大阪地域大学コンソーシアムと堺市商工労働部が共同でインターンシップを開始
 - ・平成23年度: 3者共同で堺市のインターンシップ事業を実施するため、本推進協議会を設立

7

推進協議会を設立した背景



H25より100万円加算 (バスツアー、出前講座等)

8

連携強化のための取組

資金基盤

- ・ 負担金

仕組み基盤

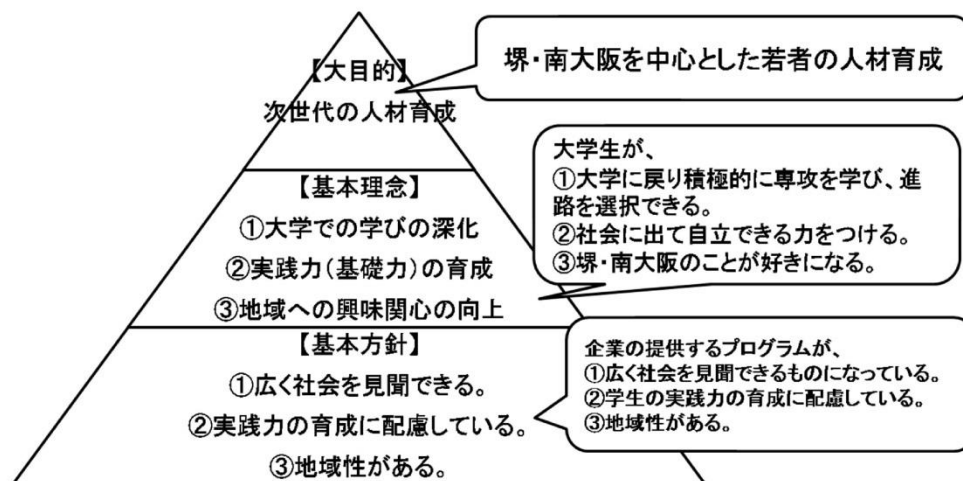
- ・ 規約改訂

運営基盤

- ・ 全体運営会議の実施
- ・ 実務担当者会議の実施

9

堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会 インターンシッププログラム目標



10

3. インターンシップ事業について

11

インターンシップ

年度	企業数	応募数	参加者数
H25	88社	253名	203名
H26	99社	355名	257名
H27	110社	371名	268名

実施団体 堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会

参加大学 36大学 その他その他近畿職能開発大学校、高専
110社(81企業16行政10保育園3プロジェクト)

**企業大学向
説明会等** 説明会(4月) 報告会(11月)

実習期間 夏季休業中の1週間～1ヶ月

学生研修 合同オリエンテーション(7月) 事後学習会(10月)

参加条件 協議会登録大学

12

インターンシップイベント(学生)



(平成26年度) サンスクエア堺



(平成27年度) 大阪府立大学i-siteなんば

インターンシップ合同オリエンテーション

平成27年7月12日(日) 13:30~16:30

於: 大阪府立大学 i-siteなんば C1~C3

参加者 学生 242名 大学職員 10名 事務局6名 合計258名

参加学生の意欲を高め、責任感や意識向上、インターンシップの目的を明確にするため、合同オリエンテーションを実施しました。ビジネスマナーや昨年度学生の体験発表、同一・類似研修先の学生の顔合わせを行いました。

13



(株式会社サカイ引越センターにて)



(S M B C 日興証券株式会社にて)



(株式会社ニッサクトにて)

14



インターンシップ事後学習会

平成27年10月18日(日)14:00~16:20

於:大阪府立大学 i-siteなんば C1~C3

参加者 学生 141名 大学職員 12名 事務局7名 合計160名

本協議会が実施しているインターンシップに参加した学生を対象として、事後学習会の機会を提供し、①インターンシップの課題や成果を学生自身が振り返り、②学生の今後の就職活動に生かすと同時に、③大学への学びの還元をめざして実施しています。

15

インターンシップイベント(企業・大学)



インターンシップ説明会及び産学交流会

平成27年4月21日(火) 14:00~16:25

於:サンスクエア堺 第一会議室

参加者 大学37名 企業35名

1. 開会挨拶及び平成26年度報告
2. 平成27年度事業説明
3. 新規受入企業、新規参加大学ご紹介
4. 産学交流会(テーマによるディスカッション)
(企業側) こんな学生に研修に来てほしい!
(大学側) 学生にこんなことを学ばせてほしい!



インターンシップ報告会および産学交流会

平成27年11月5日(木) 13:30~16:35

於:サンスクエア堺第一会議室

参加者 大学18名 企業22名

【第一部 報告会】

1. 開会挨拶及び平成27年度報告
2. 受入企業報告「わが社の取組について」株式会社日本旅行
3. 参加大学報告「本学の取組について」桃山学院大学
4. 名刺交換会

【第二部】

1. 班別意見交流会
テーマ「本音で語ろう! インターンシップ~質の向上をめざして」
2. 各班発表
3. 親交会



16

その他の連携取組(堺市事業)

目的

地元企業に興味・関心をもち、就職してほしい！

- **社長に話を聴こう！**
(各大学にて出前講座)
- **地元企業見学バスツアー**
(学生向け、教職員向け)

17

4. 成果と課題、今後の展望

18

組織としての成果と課題

【成果】 → お互いの強みを持ち寄った成果

- 学生数・大学数・企業数は年々増加している
- 学生の人材育成、企業の若手人材育成につながっている

【課題】

- 企業と学生のニーズのマッチングが難しい(全体マッチング率72%)
学生：銀行・旅行志向 堺の企業：理系志向
- 平成26年4月に3年生の学生は、4年生から就職活動が始まるので、それにあわせて企業のインターンシップ受入れが不安定になっている
- 研修中の企業負担が大きい
- 学生数・大学数・企業数増加に伴う事務局負担の増加
- 障がいのある学生の応募が増加傾向にある

19

組織の今後の展望

- 仕事理解型インターンシップとして、継続実施・現状維持
- マッチング率の向上 → 広域インターンシップ取組の活用
- プログラムの質向上を検討 → 受入企業向セミナーの実施
- 事務負担の軽減を推進 → 相互理解から役割分担へ
- マイナンバー、個人情報制度の対応
- 障がいのある学生への対応

20

ご清聴ありがとうございました。

